



笑いが絶えなかった
「憩」の新年会

室蘭・介護老健施設「憩」が新年会

○×ゲームで初笑い

室蘭市知利別町の介護老人保健施設「憩」（足永武施設長）の新年会が9日、同施設で開かれ、正月らしい出し物で利用者を喜ばせた。

毎年恒例の新年会は午後1時半から開催。入所者、通所リハビリ利用者、家族ら約100人が参加した。手づくりの門松などを飾った会場の講堂ではまず甘酒で乾杯。新年のあいさつを交わした。

続いて仙助流南京玉すだれ保存会北海道支部（芝垣晶子支部長）の3人が登場。正月にふさわしい南京玉すだれの由来などを説明しながら利用者も参加しての実践。「浦島太郎の魚釣り竿」「阿弥陀如来後光」ができ上がると、「オーツ」と歓声。この後、3人が炭焼き小屋、国旗、しだれ柳など基本形を披露、リズムミカルな芸に手拍子が飛んでいた。

引き続き○×ゲーム。「縁起のいい初夢は」「しめ飾りは29日から31日に飾るのがよい」といった硬軟織り交ぜたクイズに一喜一憂。みんなそろっての初笑いの日となっていた。（野崎己代治）